



野外試験

■牛ウイルス性下痢-粘膜病に対する有効性

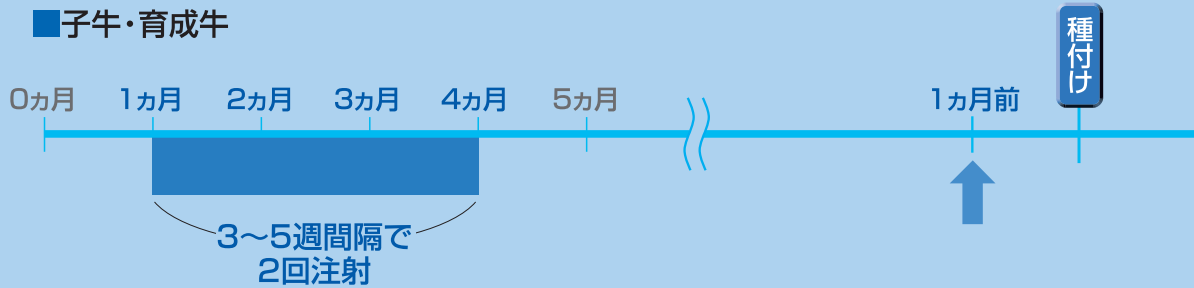
国内5ヵ所の農場で、妊娠牛および育成牛を用いて野外試験を実施しました。注射後、ワクチン群と非注射対照群の牛は同居させ観察を行いました。初回注射後および追加注射の前に、牛群に発熱を伴う下痢を認め、BVD I型およびII型の野外株による感染が確認されました。両群とも感染率は85%で差はありませんでしたが、臨床症状の程度は、対照群が中程度が30%、重症は40%であったのに対し、ワクチン群では70%が無症状か軽症、中程度は30%で重症例は認められませんでした。

一般的なワクチネーション プログラム

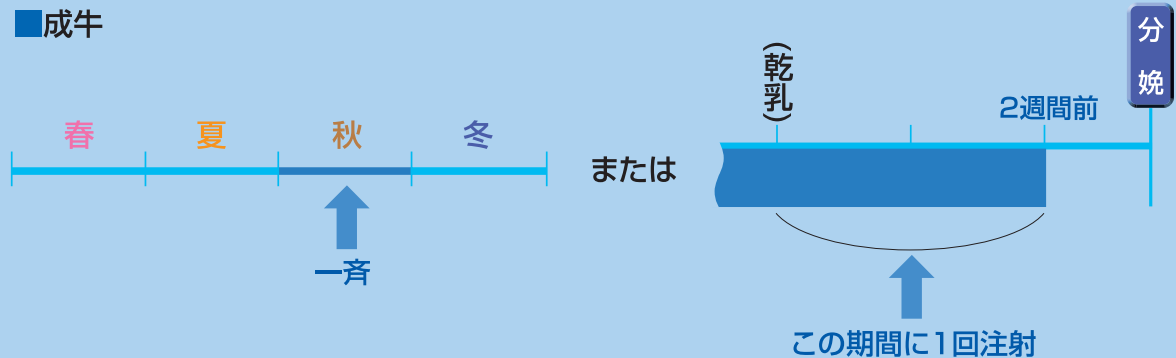
《注射可能な期間》



■子牛・育成牛



■成牛



■公共牧野に放牧する場合

